

第1号議案 平成29年度事業報告について

はじめに

社会福祉法人として2年目の事業年度にあたる平成29年度は、前年度に引き続き社会福祉制度改革の過渡期の中で、事業所のより良い形を考え、実行した一年となりましたが、法人の基本理念である、「障がいのある方たちが誇りと輝きをもって、ありのままに暮らし・働き・活動し、豊かな地域生活が営めるよう、その能力や可能性を最大限に伸ばすための支援活動を行う」ことを続けてまいりました。

法人としては、社会福祉法人円との合併を視野に合併協議会で議論を重ね、行政と検討を繰り返し、最善の方法を模索した一年となりました。

1. 就労支援事業について

①びあ

・就労継続支援事業（B型）

平成29年度は、4月からの新卒者3名と年度途中の入所者1名及び就労継続支援事業（A型）からの移行者3名を加えた合計31名で運営してまいりました。

前年度から引き続き弁当の製造・販売事業を主たる事業とし、仙台市役所、上杉分庁舎及び宮城県庁等でフロア販売を、各支援校や行政機関、市民センター、各種イベント等で注文弁当の販売を行いました。弁当チケットを定期的（隔月で偶数月）に販売し、メニュー自体のトッピングや彩り、名前を変える等、話題性や流行も考慮したお客様に訴求できる弁当を念頭に、販路を維持・拡大する工夫を進めてまいりました。また、フェイスブックやネットアンケートを利用し広報を行いました。

しかしながら、厨房職員の休職、退職等が重なり安定した生産シフトを確立できなかったことや食材の値上げ・販売価格の据え置きで収益が思ったように伸びず、工賃の更なるアップには繋がりませんでした。工賃財源の確保が引き続いての課題となっています。原材料費の高騰で原価率が上昇したことを受けて、原材料購入先の選別による利益の確保を図り、美味しく旬の郷土食材を調理方法に工夫を凝らして更にお客様に支持される商品の開発と販売先の拡充を推進してまいりました。

平成29年度は各支援学校から15名（2年生含）の実習生を受け入れ、平成30年度は新たに5名の方の利用に繋げております。各支援学校の教職員、保護者等の見学会を9回ほど行い事業所の情報の周知に努めました。

また、平成29年9月末に就労継続支援事業（A型）を廃止したことに伴いA型の定員10名を就労継続支援事業（B型）の定員へと移行し、10月1日よりB型の定員を34名で運営しております。

・就労移行支援事業

平成28年度に2名の利用者の方が一般就労して以降、通年での利用がない状態でしたが、常に利用希望に対応できるよう体制を整えてまいりました。また、平成29年度も仙台市立鶴谷特別支援学校からの就労アセスメントの依頼を受け9名の方の就労アセスメントを作成いたしました。

・就労継続支援事業（A型）

平成29年度は利用者3名で運営をしてまいりましたが、社会福祉制度改革の影響もあり事業の継続が困難と判断し、9月末に事業廃止に至りました。なお、就労継続支援事業（A型）を利用されていた3名の利用者の方及びA型で行っていた全事業については10月1日より就労継続支援事業（B型）に移行しております。

生産活動としては、引き続き燻製製品の製造・販売を主たる事業として運営してまいりました。水産物加工品のブランドとして評価をいただいております「伊達の燻製」は、仕入れや製造・販売方法の見直しを図り、販路開拓に努めました。店舗での販売先として仙台駅のおみやげ処せんだい3号店・4号店・9号店に商品を卸し、コンスタントに注文をいただいております。ふるさと納税（宮城県、仙台市）の商品として登録する等行政との関係も深めてまいりました。また、パソコン基板の解体という受託事業を進めておりますが、利益率は高いもののパソコン自体が安定して供給されず事業収入としては伸び悩んでおります。受託先の企業が中心となり販促の広告を配布する等の販路拡大を行ってきました。

新規事業として4月から株式会社ヨシケイ宮城より玉ねぎの袋詰めを受託しております。毎日の作業ではありませんが、月平均9,000個ほどで月27,000円前後の収益となっております。

②レストランぴあ

・就労継続支援事業（B型）

平成29年度は前年度に引き続き利用者20名でスタートし、年度途中でご本人の希望により1名が退所され、1名がぴあへ移行したため合計18名で運営してまいりました。

前年度に引き続きお客様に喜ばれる季節感あふれる美味しいランチを提供し、7周年記念ランチや年末にはレストランぴあ特製おせちを販売し、ご好評をいただきました。加えて喫茶タイムの充実を図り売上の向上を目指してまいりました。設備整備としても独立したエアコンを導入し、お客様により快適な時間をお過ごしいただけるようになっております。平成29年度も宮城県との事業提携として水産振興課が行う毎月第3水曜日の「みや

ぎ水産の日」で宮城県産魚介類の食材を利用したメニューを提供いたしました。

しかしながら、ぴあ同様に厨房職員の退職や体調不良等が重なり安定してグランドメニューを提供できなかったことや食材の値上げ・販売価格の据え置きで収益が思ったように伸びず、工賃の更なるアップには繋がりませんでした。工賃財源の確保が引き続いての課題となっています。

また、平成29年度は各支援学校から7名（2年生含）の実習生を受け入れ、各支援学校卒業後の進路先として、見学会やお食事会、支援学校の教職員の研修会等、大勢の方にもご利用いただきました。

II. 相談支援事業について

あしすとぴあ

・指定特定相談支援事業所 ・指定障害児相談支援事業所

主に障がいのある方々が日常生活及び社会生活において総合的に支援を受けるための支給決定を行うにあたって行政に提出が必要になるサービス等利用計画案・障害児支援利用計画案及び本計画を提出し、モニタリング等の継続支援を行いながら、利用者の方々が輝ける「あしと」を目指して支援してまいりました。

廃止・休止された事業所の方々のサービス等利用計画案、本計画も作成、支援してまいりました。各区の連絡協議会主催の相談員のスキルアップを図るケース検討会等にも積極的に参加し、話題提供等も行いました。

社会福祉法人円との合併を視野に事業所まどか・まどか西中田のケースの受入準備を行ってきましたが、一人事業所として受入人数が限界に達しているため、新規受入の制限や、他事業所へケースを振ることで対応してきました。また、仙台市の実地指導（8月18日）の結果を受け、口頭及び文書指摘事項の改善を図ってまいりました。

III. 共同生活援助事業について

ぴあびーんず

利用希望の方がなく、引き続き未入居のままの状態です。法人内部はもとより外部利用者も募るために、あしすとぴあや他法人の相談支援事業所、各区役所と連携をとって運営してまいりました。

IV. 広報活動について

引き続き、ホームページを活用し、事業所の情報や活動内容を積極的に発信してまいりました。法人の広報や弁当の販促にfacebookやネットアンケートを取り入れ、情報を拡散することで売上や知名度の上昇を図りました。法人・事業所のリーフレットやネーム入りボールペン等を活用し、事業所の情報を発信してまいりました。

また、後援会と連携し、後援会だより等でより幅広い層の方に法人・事業所の活動を知ってもらうことができました。

V. 啓発活動について

宮城県庁18階のレストランぴあを始めとし、宮城県の障害者支援のアンテナショップとして、法人の理念である「障がいがあってもなくても、今できるありがとうをみんなで社会に還元していく」を実践してまいりました。福祉だけでなく宮城県、仙台市の被災後の食の安全と産業再生への地域的取組みも併せて積極的に発信してまいりました。

前年度に法人本部が若林区から宮城野区に移転し、地域での知名度が低い中、地域住民の方々に事業所を知ってもらうために後援会を中心として第29回みやぎのまつりに参加しました。新規での参加の難しさはありましたが、利用者・保護者・職員が協力し製品を販売することで、事業所のPRを行いました。

また、NPO法人時代も含めて長年の功績に謝意が表され宮城教育大学附属特別支援学校より感謝状が贈呈されました。

VI. 地域生活支援事業（余暇活動等）について

・コーラス活動（ぴあま〜る）について

在仙アーティストの猪狩太志氏の指導の下で土曜日にコーラス練習会（合計7回）を重ね、日常の生活の自信と誇りにつながるよう発表の場を設けてまいりました。「とっておきの音楽祭2017」、「若林区合唱のつどい2017」、「ウエルフェア2017」や新入所者をお迎えする入所式等で発表を行いました。輝ける自己表現の場として社会との懸け橋になるように利用者・ご家族の方だけでなく多くの方の参加を促してまいりました。

・レクリエーションについて

東日本大震災から6年が経過した被災地の復興状況を見学する社会研修として7月に女川を日帰りで巡りました。江刺評議員に協力いただき被災地の今を肌で感じることにより、改めて大震災や被災地、復興について考える有意義な時間となりました。

また、例年に引き続き、利用者の方たちと職員が集うクリスマス・忘年会等、仕事仲間との楽しい時間を共有していただけるような機会を組み込んでまいりました。

・研修旅行について

11月12～14日に小グループ編成で、日光（11月12、13日）、小樽・札幌（11月12、13日）、金沢・能登（11月12～14日）にて研修旅行を行いました。事前に利用者の方々の希望をとり、各人の意向に合った研修先を選択できるようにいたしました。いずれも充実した社会研修旅行となりました。

VII. その他

・職員研修

外部研修として下記の研修に職員を派遣しました。

「新任職員研修」

「平成29年度障害福祉サービス経営セミナー

- 地域コミュニティで支え合うための障害福祉サービスとは - 」

「相談援助実習」

「第3回福祉新聞フォーラム」

「農福連携推進東北ブロックシンポジウム」

「役員研修」

「平成29年度仙台市知的障害者関係団体連絡協議会福祉講座①」

「みやぎの農福連携推進モデル事業第2回現地視察会」

「平成29年度社会福祉法人・社会福祉施設事務担当者研修会」

「障害者グループホーム研修会グループホームセミナー」

「平成29年度第2回宮城県金属リサイクルセミナー

～小型家電リサイクルシステムの構築に向けて～」

「平成29年度仙台市障害福祉サービス事業者等集団指導」

ほか、多数

・健康管理について

利用者・職員等の健康維持のため、健康診断を実施し、嘱託医の金野公一医師のご指導の下、利用者等の健康管理に留意してまいりました。

・事業所の改修について

ぴあの玄関前に風除室を取付け、2階を改修することでより快適な作業環境を整えてまいりました。